

熊本高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	建築設計演習II	
科目基礎情報							
科目番号	0126			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築社会デザイン工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	教材：建築設計資料集成（日本建築学会編）、「新建築」、「a+u」（以上新建築社）、「GA JAPAN」（A.D.A.EDITA Tokyo）ほか						
担当教員	森山 学,勝野 幸司,川口 彩希						
到達目標							
1. 自分の役割を意識しながら、グループ内で方針を共有し積極的に意見交換や協働作業ができる。 2. 課題を発見し、課題解決のための的確な提案をできる。 3. 必要な情報が何かを考え、自発的に現地調査などの調査を行い、調査結果をまとめることができる。 4. 構想的に伝えるダイアグラム、立体表現、模型、プレゼンテーションシートなどを制作し、適切にプレゼンできる。 5. ソフトウェア、各種道具・工具を用いて安全に制作できる。 6. 設計条件、利用者の基準寸法・アクティビティ、地域特性、環境特性、素材特性を踏まえた設計、実物大作品を制作できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の役割を意識しながら、グループ内で方針を共有し積極的に意見交換や協働作業ができる。		自分の役割を意識しながら、グループ活動ができる。		自分の役割を意識したグループ活動ができない。		
評価項目2	課題を発見し、課題解決のための的確な提案をできる。		課題を発見し、課題解決のための提案をできる。		課題を発見できず、または課題解決のための提案をできない。		
評価項目3	必要な情報が何かを考え、自発的に現地調査などの調査を行い、調査結果をまとめることができる。		現地調査などを行い、調査結果をまとめることができる。		現地調査などを行うことができず、調査結果をまとめることができない。		
評価項目4	構想的に伝えるダイアグラム、立体表現、模型、プレゼンテーションシートなどを制作し、適切にプレゼンできる。		構想をおおまかに伝えるダイアグラム、立体表現、模型、プレゼンテーションシートなどを制作し、プレゼンできる。		構想を伝えるダイアグラム、立体表現、模型、プレゼンテーションシートなどを制作し、プレゼンすることができない。		
評価項目5	ソフトウェアや各種道具を用いて制作できる。		ソフトウェアや各種道具を用いてある程度の制作ができる。		ソフトウェアや各種道具を用いて制作できない。		
評価項目6	地域の風土・歴史・文化・暮らし、地域住民の思いに配慮した設計ができる。		地域の風土・歴史・文化・暮らし、地域住民の思いに配慮した設計が部分的にできる。		地域の風土・歴史・文化・暮らし、地域住民の思いに配慮した設計ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	これまでの製図・設計技術だけでなく、他の科目で習得してきた知識、現地調査・文献調査で得た情報、グループでの意見交換を活用し、総合的な能力を発揮して、建築設計と制作を行う。課題は、①木材を使用した家具などの実寸大の作品と②中規模公共・公益施設である。 ※実務との関係 この科目は、建築設計について実習形式で授業を行うものである。講評会、年度末の学科のクライマックス講評会では、企業や行政で建築設計や製造物設計を担当している者が担当し、講評を行う。						
授業の進め方・方法	数名でグループを作り、各グループが担当教員の一人につくスタジオ制。課題①は全過程をグループで、課題②は調査をグループ、設計を個人で行う。スタジオ教員はグループ内での作業の進め方や工具の扱い方についてアドバイスし、エスキスチェックを行い、グループの自発的取り組みを促す。 各課題の優秀作品は学科のクライマックス講評会に選抜するほか、学外で展示する。						
注意点	・グループワークで意見を出し合う段階では、出た意見を批判せず、自分の意見に固執しないようにしましょう。 ・意見を具体的な計画に収束させていく段階では、よりよい化学反応がおこるよう大いに議論しましょう。 ・スケジュール管理を確実にし、協力して取り組みましょう。 ・現地調査、ヒアリング調査では、小さな発見と感動を見落とさないようアンテナを張り、新たに得た情報（発見と感動）は必ずメモしましょう。 ・一見建築に結びつきそうにない遠回りを大切にしましょう。 ・計画段階では地域本来の良さ、住民の声を活かすことに心がけましょう。 ・実際の建物や建築系雑誌などで、いい事例を見ましょう。このデザインを今度使ってみようと、考えながら見ましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、スタジオ活動（調査、打合せ、エスキス）		グループ活動にふさわしい態度を積極的にとることができる。		
		2週	スタジオ活動（調査、打合せ、エスキス、模型）		積極的に調査活動に取り組み、調査結果、意見交換、情報整理をして課題、コンセプトをまとめることができる。		
		3週	中間発表		コンセプトなどをまとめ、適切な図、模型などを用いてプレゼンテーションができる。		
		4週	製図		条件、利用者の基準寸法・アクティビティ、素材特性を踏まえた設計ができる。		
		5週	実物制作		安全に配慮し、素材特性を踏まえた実物大作品を制作できる。		
		6週	実物制作				
		7週	実物制作、プレゼンテーション作成		構想を適切に伝えるプレゼンテーションシートを作成できる。		
		8週	講評会、課題2説明		構想を適切に伝えるプレゼンテーションができる。		

	4thQ	9週	現地調査	積極的に調査活動に取り組み、必要な情報を収集できる。
		10週	スタジオ活動（調査、打合せ）	グループ活動にふさわしい態度を積極的にとることができる。積極的に調査活動に取り組み、調査結果、意見交換、情報整理をして課題、コンセプトをまとめることができる。
		11週	エスキス	設計条件、利用者の基準寸法・アクティビティ、地域特性、環境特性、中規模公共・公益施設の設計のポイントを踏まえた設計ができる。
		12週	エスキス	
		13週	製図	構想を各種の道具・ソフトを用いて図面、立体表現などを作成できる。
		14週	製図	
		15週	模型、プレゼンテーションシート	構想を各種の道具を用いて模型を作成できる。構想を適切に伝えるプレゼンテーションシートを作成できる。
		16週	講評会	構想を適切に伝えるプレゼンテーションができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、使用できる。	4	
				線の描き分け(3種類程度)ができる。	4	
				文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	4	
				建築の各種図面の意味を理解し、描けること。	4	
				図面の種類別の各種図の配置を理解している。	4	
				図面の尺度・縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	4	
				立体的な発想とその表現(例えば、正投象、単面投象、透視投象などを用い)ができる。	4	
				ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。	4	
				各種模型材料(例えば、紙、木、スチレンボードなど)を用い、図面をもとに模型を製作できる。または、BIMなどの3D-CADにより建築モデルを作成できる。	4	
				与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	4	
				与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができる。	4	
				与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかける。	4	
				設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。	4	
				講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	4	
				敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。	4	
				建築の構成要素(形と空間の構成)について説明できる。	4	
				建築における形態(ものの形)について説明できる。	4	

評価割合

	①グループ	①個人	②個人				合計
総合評価割合	35	15	50	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	35	15	50	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0